



福山平成大学 FD ニュースレター No.7



発行: 福山平成大学
FD 推進委員会
〒720-0001
広島県福山市御幸町
上岩成正戸 117-1
084(972)5001(代)
fd@heisei-u.ac.jp

目 次

第6回「私の授業発表会」

1. メンタル・トレーニング方法論 ～携帯メールでレポート提出～ (武田守弘)	1
2. スポーツ運動学演習 ～身体との対話を意識して～ (山西正記)	3
平成22年度後期 学生による授業アンケート調査結果	4
平成22年度FD講演会報告「学生の潜在的主体性をいかに引き出すか」	8
平成22年度FD講習会報告「統計講座」	8
平成22年度FD研修会報告「学生主体型授業へのアプローチ」	9
FDニュース「FD関連図書コーナー開設！」	9
看護学部のFD活動 ～看護学の教育・研究に関する力量を磨く～	9
平成22年度FD推進委員会活動記録	11

第6回「私の授業発表会」

平成23年2月21日に、今年度の「私の授業発表会」が大会議室で開催されました。今回は、福祉健康学部 健康スポーツ科学科の2名の先生が、お互いの授業風景や、受講生へのインタビューなどを撮影したビデオを含めるなど、パソコンを最大限に活用した斬新なプレゼンテーションで相手の授業の観察結果を紹介され、熱心な質疑応答もあり、大変有意義な発表会になりました。

発表その1

メンタル・トレーニング方法論 ～携帯メールでレポート提出～

福祉健康学部 健康スポーツ科学科 准教授 武田 守弘

1. 授業概要

スポーツ選手が、競技場面において自己の実力を100%発揮することは非常に困難である。そこで、トップアスリートの多くは、精神面の強化を目的としてメンタルトレーニングを実践している。その内容は多岐にわたるが、本講義では、実践を交えながら、メンタルトレーニングの意図、流れ、代表的なテクニックとその効果などを指導している。



2. 授業での工夫

①座席指定…本講義の目的のひとつに、「見知らぬ他者とコミュニケーションを取る」というものがある。そのため、授業は2週に1度席替えを行い、多くの人と交流する場を設ける。なお、授業ごとに出されるレポート課題は、この座席ごとのペアによって提出することとなるため、会話や議論および協力が必要となる。

②携帯電話のメールを利用したレポート提出…レポート課題の提出は、ペアどちらかの携帯電話のメールによって、教員のパソコンに送信される。教員は、教室内で携帯端末により、レポートが提出されたかどうかを確認し、授業の終了を指示する（メールの送信ミスを防ぐため）。このことから、従来は授業中の携帯電話の使用に手を焼いていたが、逆に携帯を使った授業ということで、学生の興味を引くことが出来た。また、従来では、教員がレポート用紙に記入されたものを、ワープロ打ちした後にデータ整理しており、非常に手間と労力がかかっていたが、レポート内容がデータとして活用できるため、データ整理が容易になり、学生へのフィードバックも素早く出来ることになった。

③パワーポイントの色分け…授業中に提示されるパワーポイントの背景色を内容によって変えている。紺色は新規の内容を、黒色は復習内容を、茶色は過去の研究の紹介を、黄色はアクティビティ（実践する内容）の内容を、白色はトップアスリートの言葉を記している。

④資料配布…授業用のテキストは存在しないが、パワーポイントの内容をその日の授業終了後に配り、スライドバーファイルに閉じさせている。テキストを作らない理由は、常に最新の情報を授業で教えるためであり、事前に配らない理由は、授業中の問い合わせに対して答えを明らかにしないためである。全 15 回の授業を終えると、1 冊のメンタルトレーニングマニュアルが出来る。

3. 評価における工夫

①持ち点（得点）…授業ごとのレポート課題には、その内容によってすべて個人に得点をつけている。逆に、重要なレポートを提出しない者には、減点も行う。さらに、授業開始後、少しの時間を持って、人前でのスピーチ（3 分間）を行っている。これは、人前に立つこと、大きな舞台に立つことに慣れる意味があり、そこでの視線や態度、行為などを見て、今後どのように改善すべきかのアドバイスを行うことが出来る。スピーチする者は、自薦とし、積極的に挑戦する者には得点を与えている。

②テスト…もちろん最終的にはテストを行う。テストの難易度はそれほど高くないと考えているが、多岐にわたる内容を浅く広く学ぶことを重視しており、勉強している学生であれば高得点を取れるものの、勉強していない学生の得点は低く、二極化しているように感じられる。

③評価…最終的な評価は、持ち点、テストの得点、授業態度などによって行われる。

観察者コメント

武田先生の授業を拝見して

福祉健康学部 健康スポーツ科学科 准教授 山西 正記

「メンタル・トレーニング方法論」は、健康スポーツ科学科の専門教育科目（選択 2 単位）であった。性質上、2 年次生の前期で「スポーツ心理学」を学んだ後期に配当されているため、スポーツ心理学の応用・発展系として位置づいていた。履修者の参加動機は、主に授業で学ぶメンタル・タフネスの技法が何らかのかたちで自分が従事する競技力の向上に寄与することを期待している。それ故、学生の授業に対する参加態度は良好で、真剣を感じさせた。授業形態は、講義と演習による混合形式で実施されるほか、2 から 3 週単位でペアおよびグループの再編が行われていた。

（特徴 1）：講義はパワーポイントを使用して進行するが、既習の講義内容と新規な講義内容、さらには最新の研究報告事例などのカテゴリーにより、スライドの背景色が区別されていた。また毎時に使用したスライドは、授業終了後に各学生に配布されており、すべての授業が終了すると、メンタル・トレーニングの指南書が完成するように工夫されている。当該授業が 2 年次配当であるが、3 年次や 4 年次になってメンタル・トレーニングを実施したいと思い立ったとき、さらには卒業後、スポーツ指導者としてメンタル・トレーニングの導入を検討するとき、その指南書が活躍することを視野に入れていた。

（特徴 2）：講義が終了すると学生は簡易レポートと称して、携帯電話からメール機能を起動し、呈示されたテーマについて発信を行った。このメール発信の履歴



が出席の代替えも兼ねている。携帯電話のメール機能を駆使したレポートであるが故に、内容、文量そして体裁は紙媒体のレポートに及ばない。ただ①授業が終わり学生が教室を退室するまでに（講義の雰囲気を損なうことなく）レポートに取り組み、提出が完了すること、また②レポート提出のメール履歴が講義への出席簿になること、そして何より③学生から提出されたレポートを教員が物理的に管理する必要がないこと、④教員が次回の講義のために授業資料を作成する折りに、電子情報として保存された学生からのレポート文章を Copy & Paste で引用することができるなど、紙媒体で提出されるレポートという既成概念を捨て去ることで、学生や教員にとって授業に関する正の循環が生じている印象を受けた。

発表その 2

スポーツ運動学演習 ~身体との対話を意識して~

福祉健康学部 健康スポーツ科学科 准教授 山西 正記

1. 授業概要

本講の「スポーツ運動学演習」は 2 年次後期に配当され、前期に開講された「スポーツ運動学（講義）」の単位取得者のみが履修することができる授業である。特徴は、15 コマの全てが実験演習にさかれており、全履修者が実験の被験者となり、データを導出、さらには Excel を用いてグラフを作成し、レポートを提出することであった。実験は、1 コマで完結するものあれば、学習実験などは、3 コマ（3 週）にわたり実施することもある。今年は 7 つの実験を実施した。



本講は、本年度（平成 22 年度）より、新規に開講された授業であるため履修者が少ないことも緻密な授業に貢献した。また 2 年次後期に配当される授業のため、受講した学生が 3 年次生からスタートするゼミ生になってくれるようにと配慮した。

2. 当該授業のねらい

運動感覚には、①四肢の位置の感覚、②四肢の動きの感覚、③重さの感覚、④筋の力の感覚、そして⑤努力感がある。運動感覚を扱う上で問題となることは、その感覚自体が個人の内観によって定義されるという性質があるがために定量化することが難しいと指摘されていることであった。そこで授業では、④と⑤に焦点を当て、これを「運動感」と称した。そして自らの身体資源にもとづき想定した運動感と実際に運動することによって生じる運動感の間に生じる葛藤を経験することによって、運動感覚のもつ「あいまいさ」や「確かさ」という二項対立的性質に触れることを課した。具体的に学生に課した運動課題は、事前に申告させた 400m の疾走タイム（目標値）に対して、±2 秒以内で走ることであった。400m 走は最大 10 本を上限にした。第 1 本目で目標値を達成する可能性もあった。

3. 授業の成果

学生は自己の運動感覚と向かい合うことを強要された。その結果、想定した運動感と動きの中の運動感が意外にも一致しているという感想を持つ学生と、意識してもなかなか一致を見ない学生、そして目標値に対してセンシティブに、また積極的に、動きの中の運動感を調整できる学生が存在した。この成果は翌週の授業で一人ひとりにフィードバックし、改めて運動感覚の性質を説明した。この授業を通じて、日々の練習の中で自分の身体と向かい合い、身体と対話する意識を育んでもらえると考える。

観察者コメント

山西先生の授業を観察して

福祉健康学部 健康スポーツ科学科 准教授 武田 守弘

山西先生の授業「スポーツ運動学演習」を観察して思うことは、とにかく演習の授業らしく、面白いということでした。各回の授業ごとに運動にかかる基本的なキーワードを取り上げ、各項目について仮説・検証形式で成果を確認しながら授業を進めておられました。

今回、観察させていただいたのは、400m走の目標設定課題であり、これは「身体と対話」、「自分の運動感覚」、「努力感」、「走るテンポ」を明確にする内容でした。400mを自分が設定したタイムで走りきることを目標とし、目標の±2 秒までを達成(成功)とする条件でした。達成できない場合は再び 400mを走る(最大 10 試行)という緊張感が伴い、実際に 3 本で成功する学生や 9 本目でようやく達成する学生など、明暗が分かれた所も見ていて興味深かったです。

翌週の振り返り、すなわち真の授業のねらいでは、誤差を計る尺度として CE (恒常誤差)、AE(絶対誤差)、VE(変動誤差)、RMS(root-mean squared) など、様々な尺度の特徴を紹介するとともに、学生が実際に走ったデータをもとに解説しておられました。



本授業に対する学生の評判は良く、学生が常に考えながら授業が展開していることや、自分のこととして授業に参加している感が見て取れました。動きのある授業に加えて翌週の分析に期待が持てるところ、身体を通して感じることで「考える→学ぶ」「実践・体験・体感・理解」とつながっていくところに、感心させられました。また、測定も学生が行うことで、自主性や効率化に気付き、卒業研究に大いにつながる授業であったと感じました。今後の私の授業にも参考になりました。

このような機会を与えて下さった皆様に、感謝いたします。

平成 22 年度後期 学生による授業アンケート調査結果

1. 調査概要

- ア. 実施期間：平成 23 年 1 月 17 日 (月) ~ 1 月 28 日 (金)
- イ. 対象科目：演習・実習等の科目を除く、全 242 科目 (受講者数 5 名未満の科目は含まず)
- ウ. 実施科目数 (実施率) : 218 科目 (90.1%)
- エ. 実施方法：科目担当教員が、授業時間中にアンケート用紙の配布、回収を行う。
- オ. 質問項目 (平成 22 年度前期・後期共通) :

- Q1. シラバス (授業概要) は、この授業の履修の決定や学習に役立った
- Q2. 受講にあたって、学習到達目標や注意事項などの説明・指導は、適切だった
- Q3. この授業の進度は、適切だった
- Q4. 教員の話し方は、聞き取りやすかった
- Q5. 板書や視聴覚機器は、見やすかった (聞きやすかった)
- Q6. 教員の説明・指導は、わかりやすかった
- Q7. 教室や実習・実技の環境・設備などは、適切だった
- Q8. この授業は、有意義だった
- Q9. この授業にきちんと出席した
- Q10. 受講マナー (遅刻・早退、私語など) は守れた
- Q11. 予習・復習・課題提出など、この授業に熱心に取り組んだ

- カ. 回答方法：上記の各問について「5.よくあてはまる～1.全くあてはまらない」の 5 段階評価。
- キ. その他：科目担当教員の自由設問及び、自由記述欄あり。

2. 大学全体の結果

2. 1 前回（平成 22 年度前期）の回答総数と平均値

	5. よくあて はまる	4. ややあ てはまる	3. どちら でもない	2. あま りあては まらない	1. 全くあ てはまら ない	未回答	平均値	標準偏差
Q1 シラバス	2,104	2,414	2,945	312	211	3	3.74	0.98
Q2 到達目標・注意事項の説明	2,514	2,840	2,240	265	117	13	3.92	0.92
Q3 授業の進度	2,755	2,755	1,989	331	127	12	3.97	0.95
Q4 教員の話し方	2,956	2,579	1,807	411	219	17	3.96	1.02
Q5 板書・視聴覚機器	2,742	2,570	1,990	426	241	20	3.90	1.03
Q6 教員の説明・指導	2,805	2,600	1,911	443	213	17	3.92	1.02
Q7 教室の環境・設備・機材	2,799	2,668	2,067	294	146	15	3.96	0.96
Q8 授業は有意義だった	2,897	2,503	2,018	329	195	47	3.95	1.00
Q9 出席態度	5,110	1,575	1,094	141	29	40	4.46	0.82
Q10 受講マナー	4,202	2,222	1,327	146	46	46	4.31	0.85
Q11 授業への取組み	3,177	2,141	2,160	320	131	60	4.00	0.99

2. 2 今回（平成 22 年度後期）の回答総数と平均値

	5. よくあて はまる	4. ややあ てはまる	3. どちら でもない	2. あま りあては まらない	1. 全くあ てはまら ない	未回答	平均値	標準偏差
Q1 シラバス	1,817	1,878	1,956	177	119	4	3.86	0.96
Q2 到達目標・注意事項の説明	2,066	2,088	1,530	194	68	5	3.99	0.92
Q3 授業の進度	2,247	1,976	1,403	245	71	9	4.02	0.99
Q4 教員の話し方	2,341	1,862	1,343	274	122	9	4.01	0.99
Q5 板書・視聴覚機器	2,251	1,793	1,493	301	125	8	3.97	1.01
Q6 教員の説明・指導	2,271	1,822	1,437	293	119	9	3.98	1.00
Q7 教室の環境・設備・機材	2,281	1,884	1,500	192	85	9	4.02	0.95
Q8 授業は有意義だった	2,349	1,752	1,475	242	108	25	4.01	0.99
Q9 出席態度	3,466	1,426	873	125	25	36	4.38	0.84
Q10 受講マナー	2,868	1,831	1,033	151	31	37	4.24	0.87
Q11 授業への取組み	2,396	1,648	1,540	235	87	45	4.02	0.98

3. 最近3年間の平均値の推移

	20年度		21年度		22年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
Q1 シラバス	3.71	3.90	3.80	3.92	3.74	3.86
Q2 到達目標・注意事項の説明	3.94	4.11	3.99	4.06	3.92	3.99
Q3 授業の進度	4.00	4.15	4.03	4.10	3.97	4.02
Q4 教員の話し方	3.97	4.14	4.03	4.10	3.96	4.01
Q5 板書・視聴覚機器	3.84	4.06	3.93	4.04	3.90	3.97
Q6 教員の説明・指導	3.94	4.12	3.97	4.07	3.92	3.98
Q7 教室の環境・設備・機材	4.01	4.18	4.04	4.11	3.96	4.02
Q8 授業は有意義だった	3.96	4.15	4.01	4.11	3.95	4.01
Q9 出席態度	4.43	4.39	4.46	4.41	4.46	4.38
Q10 受講マナー	4.30	4.30	4.33	4.28	4.31	4.24
Q11 授業への取組み	3.81	3.99	4.01	4.04	4.00	4.02

4. 学年別の平均値の比較

	1年	2年	3年	4年	全体
Q1 シラバス	3.64	3.92	4.21	4.18	3.86
Q2 到達目標・注意事項の説明	3.78	4.04	4.35	4.30	3.99
Q3 授業の進度	3.84	4.03	4.37	4.32	4.02
Q4 教員の話し方	3.80	4.05	4.38	4.33	4.01
Q5 板書・視聴覚機器	3.75	4.01	4.34	4.30	3.97
Q6 教員の説明・指導	3.76	4.02	4.36	4.36	3.98
Q7 教室の環境・設備・機材	3.82	4.06	4.40	4.35	4.02
Q8 授業は有意義だった	3.80	4.05	4.38	4.29	4.01
Q9 出席態度	4.32	4.45	4.44	4.06	4.38
Q10 受講マナー	4.17	4.26	4.37	4.26	4.24
Q11 授業への取組み	3.92	4.04	4.21	3.89	4.02

5. 学科別の平均値

学部・学科	経営学部	福祉健康学部			看護学部
	経営・経営情報	福祉	こども	健康スポーツ科	看護
Q1 シラバス	3.93	3.79	4.11	3.79	3.77
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.17	3.99	4.24	3.87	3.87
Q3 授業の進度	4.19	4.02	4.23	3.90	3.94
Q4 教員の話し方	4.18	4.07	4.26	3.85	3.94
Q5 板書・視聴覚機器	4.13	4.00	4.23	3.83	3.86
Q6 教員の説明・指導	4.14	4.03	4.26	3.84	3.87
Q7 教室の環境・設備・機材	4.15	4.09	4.29	3.88	3.94
Q8 授業は有意義だった	4.16	3.98	4.28	3.88	3.93
Q9 出席態度	4.33	4.27	4.59	4.25	4.58
Q10 受講マナー	4.25	4.07	4.46	4.16	4.30
Q11 授業への取組み	3.92	3.88	4.31	3.95	4.09

6. 受講態度別の比較

6. 1 出席態度別の比較

Q9. きちんと出席した	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2.あまりあてはまらない	1.全くあてはまらない	全体
Q1 シラバス	4.05	3.77	3.33	3.14	2.72	3.86
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.21	3.90	3.40	3.45	2.68	3.99
Q3 授業の進度	4.25	3.92	3.41	3.46	2.68	4.02
Q4 教員の話し方	4.23	3.93	3.42	3.46	2.68	4.01
Q5 板書・視聴覚機器	4.18	3.87	3.38	3.47	2.68	3.97
Q6 教員の説明・指導	4.20	3.89	3.41	3.30	2.84	3.98
Q7 教室の環境・設備・機材	4.25	3.93	3.40	3.47	2.67	4.02
Q8 授業は有意義だった	4.25	3.91	3.38	3.31	2.60	4.01
回答件数	3,466	1,426	873	125	25	5,915

6. 2 受講態度別の比較

Q10. 受講マナーは守れた	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2.あまりあてはまらない	1.全くあてはまらない	全体
Q1 シラバス	4.16	3.75	3.32	3.43	2.71	3.86
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.33	3.88	3.36	3.46	2.90	3.99
Q3 授業の進度	4.35	3.93	3.38	3.59	2.90	4.02
Q4 教員の話し方	4.35	3.91	3.38	3.55	2.94	4.01
Q5 板書・視聴覚機器	4.31	3.86	3.33	3.39	3.03	3.97
Q6 教員の説明・指導	4.33	3.88	3.32	3.46	2.87	3.98
Q7 教室の環境・設備・機材	4.36	3.92	3.38	3.49	3.06	4.02
Q8 授業は有意義だった	4.37	3.91	3.33	3.33	2.77	4.01
回答件数	2,868	1,831	1,033	151	31	5,914

6. 3 勉学態度別の比較

Q11. 熱心に取り組んだ	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2.あまりあてはまらない	1.全くあてはまらない	全体
Q1 シラバス	4.28	3.84	3.37	3.35	2.74	3.86
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.41	4.02	3.46	3.32	3.20	3.99
Q3 授業の進度	4.44	4.04	3.51	3.39	3.25	4.02
Q4 教員の話し方	4.45	4.03	3.50	3.31	3.09	4.01
Q5 板書・視聴覚機器	4.41	3.99	3.40	3.34	3.22	3.97
Q6 教員の説明・指導	4.44	3.99	3.44	3.20	3.05	3.98
Q7 教室の環境・設備・機材	4.47	4.02	3.48	3.48	3.07	4.02
Q8 授業は有意義だった	4.48	4.02	3.44	3.24	3.15	4.01
回答件数	2,396	1,648	1,540	235	87	5,906

平成22年度FD講演会報告

「学生の潜在的主体性をいかに引き出すか」

~岡山大学・橋本勝先生をお招きして~



平成22年9月16日に、大会議室でFD講演会を開催しました。講師に岡山大学の橋本勝先生(教育開発センター教授・FD部門長)をお招きして、「学生の潜在的主体性をいかに引き出すか~今どきの学生の目を輝かせるコツ~」というテーマで、講演をしていただきました。

橋本先生は、学生主体型授業の展開や、学生参加型FDなど、ユニークな発想と強力なリーダーシップで、岡山大学のFDを牽引されてこられた方で、全国的に活躍されている第一人者です。

講演は、橋本先生のユーモアあふれる自己紹介から始まり、その後、聴講者が3~4名ずつのグループに分かれ、与えられたテーマで約10分間のグループワークがありました。最初は一体何をさせられるのかという警戒感が、おそるおそる始めたグループ内での議論を通じてすっかり解きほぐされ、これが橋本先生一流のいわゆる「つかみ」で、聴衆を講演に引き込む有効な手段であることがわかりました。

その後本論に入り、橋本先生が岡山大学で展開されている、「橋本メソッド」という名前で全国的に知られる独自の、チーム制による討論型授業についての説明がありました。従来の、教員が一方的に知識を与えるというタイプの授業ではなく、学生たちが自分で考え、まとめ、学んでいくという、いわゆる「学生主体型授業」です。橋本先生の授業では、3つのポイント、つまり競争原理、ゲーム感覚、自由度の大きさによって、100~150人の規模の授業で成功を収めていることが紹介されました。

また隠れミソとして「シャトルカード」と呼ばれる用紙を利用して、受講生と教師の間の1対1の関係を確保し、授業の効果を高めているという話題もありました。橋本先生ご自身は、シャトルカードに毎週20~40時間をかけて、学生一人一人に合った丁寧な回答コメントを返しているとの話に、驚きの声も上がってきました。

当日は約40名の教職員が熱心に聴講し、学生の主体性をいかに育てるかということを大いに考えさせられる、大変有意義な講演会でした。



平成22年度FD講習会報告

「統計講座」~福井教授によるPC利用の多変量解析講座~

平成22年12月21日に、経営学部の福井正康教授によるFD講習会「統計講座」が、コンピュータ室(5103教室)で開催されました。

このFD講習会は、授業改善と研究への活用を目指して、毎年福井先生が取り組んでいただき、学内のみならず学外からも受講者が集まり、好評を得ています。今年度は看護学部の教員を中心とした参加者が、福井先生が開発されたソフトを利用して、熱心に受講しました。今後パソコンを利用した授業改善に役立てていただければと思います。

平成23年度にもFD講習会を企画する予定ですので、多数の方のご参加をお待ち申し上げます。



平成 22 年度 F D 研修会報告

「学生主体型授業へのアプローチ」

～山形大学制作のビデオ上映～

平成 23 年 3 月 10 日に、本年度の F D 研修会を開催しました。今回は、ビデオ「学生主体型授業へのアプローチ」(山形大学制作)を、大会議室で上映し、約 50 名の教員が出席しました。

このビデオは、文部科学省の平成 20 年度「質の高い大学教育推進プログラム(教育 G P)」に採択された山形大学の取組み「学生主体型授業開発共有化 F D プロジェクト」の一環として、授業改善のための教材として作成されたものです。近年わが国の F D 活動の、一つの大きな流れとして注目されている学生主体型授業を行う上で、気をつけるべき 10 のエピソードを取り上げ、悪い例とよい例を対比して、寸劇でわかりやすく、時にはユーモアたっぷりに示してくれる興味深いビデオでした。今後の授業の展開にあたって、多くのヒントを得ることができたのではないかと思います。



なお上映にあたっては、山形大学様のご快諾をいただきました。感謝申しあげます。

F D ニュース

F D 関連図書コーナー開設！



平成 22 年 9 月 25 日に、本学図書館 1 F の参考図書架に、かねてから準備を進めていた「F D 関連図書コーナー」が開設されました。

国内外の F D や教育に関する主要な図書を集めて、自由に閲覧、貸し出しありますので、ぜひご利用下さい。現在約 40 冊ですが、今後さらに追加・充実していく予定です。また、ご希望の F D 関連図書がありましたら、fd@heisei-u.ac.jp までメールでお知らせ下さい。

多数の方のご利用を、心からお待ちしております。

看護学部の F D 活動

～看護学の教育・研究に関する力量を磨く～

看護学部では、今年度から学部独自の F D への積極的な取組みを開始しました。学部単位での F D 活動は、本学では初めてです。ここではその概略を紹介します。

1. 概要

今年度の F D プログラムは、平成 23 年 3 月 19 日に 12 号館(看護学部) 1 階にある地域交流センターで、約 1 時間にわたり実施され、看護学部全教員(29 名)が参加しました。

第 1 回目の今年のテーマは「看護学の教育・研究に関する力量を磨く」です。まずははじめに、「看護教育における F D」(INR(2007), Vol.30, No.2)を教材として F D に関する話題を提供し、その後、それぞれの専門領域別に 5 つのグループ(5 ~ 6 名)に分かれ、F D ・看護学の教育・研究について検討しました。

その方法は、まず重要と考えられる課題を提示し、優先順位を決定して、その課題の学習方法と研究についてより効果的戦略について検討します。最後に、各グループは検討した内容をまとめて全体会議に報告し、次年度への F D 活動に繋げます。

2. 各専門領域ごとのグループからの報告

各専門領域ごとのグループから報告された、重要な教育・研究活動は、次のとおりです。

基礎看護領域 (7名) 担当：橋本・国岡	<ul style="list-style-type: none"> FDは不可欠：学生の看護実践の場では高度な専門知識が求められるので、学生には学習が魅力的で不可欠と受けとめられる教育を創造する。 臨床・教育のユニフィケーションで臨場感ある学習を推進する。 教員の資質向上には研修が不可欠で重要。
成人看護領域 (6名) 担当：藤田	<ul style="list-style-type: none"> 学生が自ら学ぶ力についていく教育を行う。 学習が進まない学生には、1対1の対応をおこない、困難な部分を学生とともに考える教育を行う。
母子看護領域 (5名) 担当：門田	<ul style="list-style-type: none"> 教員に研修制度を設け、長期・短期の国内外の研修を義務付ける。 教員の授業評価は不可欠であるが、実習の後に授業での知識が実践的でかつ十分であったかの評価も必要。 学生には看護の状況を考え、判断する力をつける。
精神看護領域 (4名) 担当：高野	<ul style="list-style-type: none"> 学生主体の教育法を考えていく。 実践的学習を対話・議論を通して学習する。 現代学生の特性をふまえて教育方法を工夫する。
在宅・地域看護領域(5名) 担当：森下	<ul style="list-style-type: none"> 現代学生の特殊な学習ニーズに配慮した教育が必要。 各分野で教育の効果的手法を研究し実践する。 本学で行われているFD活動にはもう少し工夫が必要。

3. 評価

終了後の、次の各質問項目に対しての、参加者の5段階評価の結果は、次のとおりです。

質問項目	平均値	標準偏差
1. FDの課題は適切であった	3.5	1.4
2. 事前準備への時間は妥当であった	4.2	1.0
3. 議論は有意義であった	3.4	1.1
4. 議論は十分できた	3.0	1.2
5. 発言には適切な時間が配分された	4.0	1.1
6. グループでは自由に発言できた	3.2	0.9
7. 限界の大きい環境での日時の決定は妥当であった	3.9	1.2

4. 参加者の感想

また、参加者の感想や次回への希望（自由記載）は、次のとおりです。

- FDのグループワークも定期的に行い、運営に慣れていくことが必要
- 初めての機会であったが日頃関わりのない教員とコミュニケーションが図れた
- 忙しかったが、グループで話し合うことは大変意義があった
- 時間が短かったので残念でした
- 短時間だったが、熱心な討議がなされ有意義なFDへの第1歩であった
- 時間が短く討議ができればよかったです
- 時間不足でした
- 教員自身の教育力アップが必要
- 年に2～3回看護学部教員全員によるFDを実施したい
- もう少し時間を作ってほしい
- FDの重要性が理解認識できた
- 前期後期で各1回は実施を！

平成 22 年度 F D 推進委員会 活動記録

平成 22 年 5 月 19 日	平成 22 年度 第 1 回委員会
	議題 1) 平成 21 年度活動内容について 2) 平成 22 年度活動計画案 3) その他
7 月 5 ~ 17 日	平成 22 年度版 学生写真台帳 CD を全教員に配布 (貸与) 学生による授業アンケート調査 (前期)
7 月 29 日	平成 22 年度 第 2 回委員会
	議題 1) F D 講演会について 2) 来年度 F D 関連予算について 3) F D 関連図書購入について 4) F D ワークショップについて 5) その他
9 月 16 日	F D 講演会
	演題 「学生の潜在的主体性をいかに引き出すか ～今どきの学生の目を輝かせるコツ～」
	講師 岡山大学 教育開発センター教授 F D 部門長 橋本 勝 氏
9 月 25 日	図書館に「F D 関連図書コーナー」開設 (37 冊)
12 月 8 日	平成 22 年度 第 3 回委員会
	議題 1) 授業アンケートについて 2) その他
12 月 21 ~ 22 日	F D 講習会「統計講座 (基本統計)」
	講師 経営学部 経営学科 教授 福井 正康
平成 23 年 1 月 17 ~ 28 日	学生による授業アンケート調査 (後期)
2 月 15 日	平成 22 年度 第 4 回委員会
	議題 1) 「私の授業発表会」について 2) F D 研修会 (ビデオ上映) について 3) F D ニュースレターについて 4) その他
2 月 21 日	第 6 回 私の授業発表会 授業発表と参観報告
	福祉健康学部 健康スポーツ科学科 准教授 山西 正記 福祉健康学部 健康スポーツ科学科 准教授 武田 守弘
3 月 10 日	F D 研修会 ビデオ上映「学生主体型授業へのアプローチ」 (山形大学制作)
3 月 31 日	F D ニュースレター第 7 号発行

編集後記 F D ニュースレター第 7 号をお届けします。今年度は、斬新なプレゼンテーションでの「私の授業発表会」や F D 講習会の他に、新たな企画としての F D 講演会や F D 研修会、F D 図書コーナーの新設、さらに看護学部での F D への取り組みなどが加わり、徐々にではありますが活動範囲を広げつつあると考えています。今後さらにより一層活発な F D 活動を進めていくよう、F D 推進委員会一同、努力を重ねる所存ですので、引き続きよろしくお願い申しあげます。(K. K)